

文部科学省
高木義明大臣殿

2011年4月19日

時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

この度の東日本大震災で KEK は大きな被害を受けており、KEK-PF についてはこの夏の運転が中止される、という非常事態になりました。全国の放射光研究者はこの事態を深く憂慮しており、一日も早い復旧を心から望んでおります。そのため、政府の予算措置を是非よろしくお願いいたします。

放射光は今や日本の国力、国際競争力を支える大きな柱となっております。我々放射光科学に携わる研究者にとって、KEK-PF は放射光のメッカであり、現在も多くの優れた研究成果を生み出す「知の泉」として際だった存在感を示しております。西の雄である SPring-8 が稼働 14 年目を迎えてもなお、東の雄 KEK-PF の重要性は少しも揺らぐことはなく、特に東日本の利用者にとって大いに頼りとするところであります。PF および PF-AR では年間に 5000 時間近い運転を行っており、大学共同利用を通じて研究、教育にフル活用されています。発表論文は毎年 500 編以上、博士論文 30-40 編、修士論文約 100 編と、高いアクティビティを示しています。また産業利用も活発に行われており、産業イノベーションにも大いに貢献しております。

しかし、この度の震災の影響で電力の大幅削減、さらには復興支援のために予算削減、という事態を我々は大変心配しております。上記のような KEK-PF の大学共同利用機関としての役割を鑑みますと、長期に亘る KEK-PF のシャットダウンは、日本の迅速な震災復興に向けてその土台としての基礎科学技術や、産業界の基盤技術の発展を支える人材育成にとっても甚大な影響を与えることが強く懸念されます。また、今回の PF の運転中止に対して、国内および国外の放射光施設から緊急的なビームタイムの提供が PF に寄せられていると聞いており、放射光研究者としては大変ありがたい申し出であると感謝しております。具体的な対応は PF で調整されていますが、他施設、特に海外施設での利用に対しては、旅費等の支援がないと折角の好意が生かされないことが懸念されます。

現状で東日本の災害復旧が最大の急務であることは十分承知しておりますが、その上で、今年度秋季以降の放射光実験は是非実現すべく復旧して頂きたいと切に願っております。文部科学省におかれましては、施設復旧と他施設利用支援のための予算措置をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

日本放射光学会会長

尾嶋正治

(東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻)

尾嶋正治 